

◆実践問題36◆

1回目
2回目
3回目
4回目
5回目

この阿闍梨は、冷泉院にも親しくさぶらひて、

御経など教へきこゆる人なりけり。京に出でたる

ついでに参りて、例の、さるべき文など御覧じて

問はせ給ふこともあるついでに、「八の宮の、いと

かしこく内教の御才悟り深くものし給ひけるか

な。心深く思ひすまし給へるほど、まことの聖の

掟になむ見え給ふ」と聞こゆ。「いまだかたちは変

へ給はずや。俗聖とか、この若き人々の付けたん

なる、あはれなることなり」などのたまはす。

宰相の中将も、御前にさぶらひ給ひて、我こそ、

世の中をばいとすさまじう思ひ知りながら、行ひ

など、人に目とどめらるばかりは勤めず、口惜し

くて過ぐし来れど、人知れず思ひつつ、俗ながら

聖になり給ふ心の掟やいかにと、耳とどめて聞き

給ふ。「出家のころざしはもとよりものし給へる

を、はかなきことに思ひとどこほり、今となりて

は心苦しき女子どもの御上をえ思ひ捨てぬとなむ

嘆き給ふ」と奏す。